

令和2年度

徳島県立川島中学校

学校評価についての総括評価表

令和2年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(1)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(1) 中高一貫教育の推進	<p>① 中高連携の促進に努め、生徒の個性や能力を伸張するとともに、異年齢集団における社会性の育成を進める。</p> <p>② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年5回実施し、生徒の現状に応じた教育活動を検討する。</p> <p>② 儀式的行事や体育祭・文化祭だけでなく、必要に応じて行事等を中高合同で実施し、満足度を80%以上とする。</p> <p>③ 特別活動などで、学年をまたがったの活動を取り入れ、6年間を見通した特色ある教育を行っているとの回答を80%以上とする。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年5回、また中高合同の教科会を3回実施した。</p> <p>② 今年度は入学式は中高合同で実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として密を避けるために、文化祭は中止、体育祭は中高が別日を設定し実施した。そのためアンケート項目よりこの項目は消去したので数値の比較はできない。(昨年度生徒・保護者・教職員の満足度は、79%・89%・77%)今後の行事のあり方について継続して検討が必要である。</p> <p>③ 6年間を見通した特色ある教育を行っているかどうかは、アンケート結果から、生徒は98%(昨年度93%)、保護者が92%(昨年度83%)と増加し目標を達成した。少しずつではあるが生徒の満足度が保護者に伝わってきていると考える。教職員の満足度も86%(昨年度77%)と目標を達成した。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>今年度の中高一貫教育の推進に関するすべてのアンケートの項目で生徒・保護者の回答はほぼ9割以上が肯定的である。しかし、児童数の減少に伴い志願者数は減少傾向にある。志願者の学力については、開校当初に比べ学力差が大きいので、現在の生徒の学力にあわせて目標の設定が必要である。</p> <p>今後も、数学の先取り学習などの特色ある取組を継続していきたい。</p>	<p>○ 新型コロナウイルスの感染防止対策の中で、予定していた行事が実施できず、手探り状況の中でありながら、中高一貫教育推進に関して、生徒・保護者から高い評価を得られている点は、学校への信頼のあらわれと考える。ICTの活用など新たな取り組みでも、期待に応えられるよう頑張りたい。</p> <p>○ 志願者数を増やすためには、中高一貫教育校としてのカリキュラムマネジメントの充実に努め、成果を着実に上げて、生徒や保護者、地域の満足度と信頼度を地道に積み上げていくことに尽きると考える。中高一貫教育推進委員会では、そのためには何が足りていないかを徹底して話し合い、知恵を絞り出し合う機会として欲しい。</p> <p>○ 昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルスの感染症の影響で、本来の生活ができなかったために、代替えになる行事等で対処していくことの大変さを感じた一年だったと思う。中高一貫校の魅力を十分に発信できなかったことも来年度に向けての課題になったと思う。</p>	<p>○ 数学は、授業の工夫やティーム・ティーチングを実施し、わかりやすい授業を実施した。しかし、すべての生徒が先取り学習の有用性が実感できるように、さらに工夫しなければならないと考える。また、2月に各教室に電子黒板が設置され、来年度は、デジタル教科書も導入されるので、ICTの効果的な活用が各年次、各教科で推進されるようにしていきたい。</p> <p>○ 本校のめざす学校像を、具体化・明確化し、生徒・保護者に伝えていくことが必要であるので、校外に向けてさらにホームページ等で発信していきたい。</p>	
		<p>① 併設高校と連携し、毎学期に教科会を行ったり、研究授業を行ったりするなど生徒の現状に応じた6年間の学習計画づくりをする。</p> <p>② 中学生・高校生がともに参加する共通の学校行事に積極的な参加を促す。</p> <p>③ 専門委員会などを通して学年の枠を越えた活動を推進する。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年5回実施し、一貫教育における懸案を話し合った。本年度も学期に一度教科会を行い、各担当学年やクラスの現状と課題について話し合いをもった。また、授業見学会を行い、授業力向上を図った。</p> <p>② 入学式、身体計測を中高合同で、始業式・終業式(学期ごと)、全校集会(毎月)をZoomを使って実施した。</p> <p>③ 委員会活動を実施する上で、さらなる活性化を図るため、玄関ホールに各委員会毎の掲示板を設置したり、全校集会後に必ず中学生集会をひらき、各委員会からの連絡を行ったりした。今年度は緊急事態宣言の臨時休校のため、生活オリエンテーションは実施しなかった。</p>				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題	
		評価指標		評価指数による達成度				
			活動計画	活動計画の実施状況				
<p>(2) 確かな学力の充実と指導力の向上</p>	<p>① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。</p> <p>② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。</p> <p>③ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の研究を推進する。</p>	<p>① 家庭学習時間（塾なども含む）の平均が各クラス2時間以上をめざす。</p> <p>② 「1年間、計画を立てて振り返りながら学習に取り組むことができた」と答える生徒の割合が70%以上をめざす。</p> <p>③ 各種検定（漢検・英検・数検など）の受検率を昨年度より向上させる。</p> <p>④ 至誠ノートの読書記録を活用して、毎月の読書冊数の平均が各クラス2冊以上をめざす。</p> <p>⑤ 「授業力向上のための授業見学」で学んだことなどを踏まえて、「小单元ごとに深い学びを促す場面を1回以上設定できた」と答える教員の割合が80%以上をめざす。</p>	<p>① 至誠ノートを毎日提出させ、学習の計画を立て、振り返る習慣を身につけさせる。</p> <p>② 中高一貫校用の模試を活用して、大学入試まで見据えた学習指導を行う。</p> <p>③ 各学年で効果的な「質問タイム」や「補充学習」を実施し、個々の生徒の学力を伸ばす。</p> <p>④ 図書委員会と連携して読書活動を推進し、思考力や表現力、幅広い視野を育成する。</p> <p>⑤ 「授業力向上のための授業見学」において、授業見学と公開授業に積極的に取り組む。</p>	<p>アンケート結果</p> <p>① 定期考査ごとの学習状況調査では、毎回のクラスも平均3時間以上学習している。また、普段の家庭学習が1時間未満の生徒の割合は13%で、昨年度から8ポイント改善された。</p> <p>② 「計画を立てて振り返りながら学習に取り組むことができた」と答えた生徒は58%で、目標には届かなかった。</p> <p>③ 昨年度と比べて受検率は漢検が55%から53%、英検が34%から64%、数検が13%から20%となり、特に英検の受検率が大きく向上した。また、今年度は数学思考力検定も実施することができた。</p> <p>④ 月平均が2冊以上は6クラス中、2クラスだったが、昨年度と比べて1年生が2.2冊から2.6冊、2年生が1.3冊から1.7冊と少し増加している。</p> <p>⑤ 全教員が「小单元ごとに深い学びを促す場面を1回以上設定できた」と回答していた。また、昨年度と比べて「授業に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が81%から89%、「本校の授業は、わかりやすく工夫されている」と答えた保護者の割合が85%から91%、とそれぞれ増加している。</p>	<p>① 定期考査の時間割発表の日に学習の計画を立てる時間を設け、考査最終日には毎回学習状況調査を実施した。また至誠ノートは、休校期間中にも活用した。</p> <p>② 昨年度から実施している中高一貫校用の模試は、本校の生徒に合った形で「学力推移調査」のみの実施へと変更し、より学力の推移が見られるようになった。そして、冬の二者面談前にその模試の分析会を行い、各学年の学力を教員全体で共有した。</p> <p>③ 定期考査の課題が終わっていない生徒は、補充学習の時間に別の教室で課題に取り組ませるなど、昨年度に引き続いて各学年・教科で工夫しながら実施した。</p> <p>④ 図書委員会がポスターや帰りの学活で読書と呼びかけた。今年度から至誠ノートに読書記録のページが設けられたが、十分には活用できなかった。</p> <p>⑤ 中高合同で「授業力向上のための授業見学」を年間3回行った。第1回と第3回は高校の授業を見学し、第2回は中学校が授業を公開して、研究協議を行った。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>昨年度から始めた取組を引き続き継続することができた。特に各種検定に関しては、廊下に検定コーナーを設け、本校の目標を学校全体に周知徹底した結果、受検率の向上につながった。本校の大きな特徴である「質問タイム」と「補充学習」に関しては、昨年度より肯定的に答える生徒の割合が増加した。（「質問タイムや補充学習は学力向上に役立っている」と答えた生徒が66%から80%と大幅に増加している。）そして、こういった取組が実を結び、昨年度に比べて生徒自ら意欲的に学ぶ姿勢が身についてきている。（「子どもが家庭学習に主体的に取り組んでいる」と答えた保護者が55%から63%、「生徒が授業に積極的に取り組んでいる」という質問に「そう思う」と答えた教師が31%から64%、とそれぞれ増加している。）</p>	<p>○ 読書量が増加しているとのこととはとても良いことだと思う。読書は心の豊かさ、教養を高める上で、人間としての成長に大きく寄与するものであると考える。今後 ICT が進むものと考えられるが、継続して取り組んで欲しい。</p> <p>○ 熱意と飽くなき探究、日々の研鑽が一人一人の教員の指導力向上には求められる。学力向上実行プランに沿って、これを実効性のあるものにするためにも、中高教員双方の「授業力向上のための授業見学」と研究協議を通して、自らの授業スキルを振り返り、改善する絶好の機会と捉えて臨んで欲しい。</p> <p>○ 計画を立てて振り返りながら学習に取り組むことができたと答えた生徒が58%とあるが、今年もコロナの影響で、思うように学校生活ができなかったのでは仕方ないと思う。しかし、検定の受検率が上がったのは素晴らしいことだと思う。勉強に対しての意欲の表れだとも思う。</p>	<p>○ 2月末に電子黒板が各教室に設置され、来年度は生徒一人ひとりにタブレットが配布される予定である。これらの ICT 機器に関する教員の研修を実施し、効果的に授業等で取り入れながら、ますます生徒の学習意欲と学力の向上を図っていきたい。</p> <p>○ 各種検定の受検率は向上させることができた。英検では準2級に挑戦する生徒も出てきているので、次年度は受検率とともに合格率も向上させていきたい。</p> <p>○ 至誠ノートが定期考査期間中しか、十分に活用できていない生徒が多数いると考えられる。計画を立てて振り返るといったことは、高校のスコラノートにつながるとても大事な習慣なので、中学生のうちからもっと徹底させていきたい。</p>

令和2年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(3)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指数による達成度	総合評価		
(3) 生徒の能力・適性に応じた進路の実現	①進路指導の改善・充実を図り、進路達成意欲を高める。 ②三者面談・年次PTAなどにより保護者との連携強化に努める。	①「先輩から学ぶ」(2年生)、「スペシャルアプローチ」(3年生)など中学生が高校生と語り合うことは学校生活に役に立っていると思う生徒・保護者の割合を85%以上をめざす。 ②フューチャーにおいて、将来の進路につながるキャリア教育を実施し、それぞれの発達段階に応じた体験活動が進路選択に役立つとの回答が85%を超えるようにする。 ③「進学説明会」(3年生)の実施が進路を見据えた学校生活に役立つとの回答が80%以上にする。	アンケート結果 ①生徒の91%(昨年度82%)が「先輩から学ぶ」「スペシャルアプローチ」が学校生活に役立っている」と回答した。また、保護者の78%(昨年度83%)が、子どもたちの学校生活に役立っている」と回答した。 ②生徒の93%(昨年度85%)、保護者の89%(昨年度85%)がフューチャーでの様々な学習や体験活動が進路選択に役立つと回答した。 ③3年生の88%(昨年度81%)、3年生の保護者の75%(昨年度83%)が、高校からの「進学説明会」が進路を見据えた学校生活に役立つと回答した。	(評定) B ----- (所見) どの項目でも「そう思う」「ある程度そう思う」という回答が8割以上となっており、本校の進路指導におおむね理解をいただいているものと思われる。評価指数②については生徒・保護者ともに目標値に到達しているが、評価指数①③については生徒の回答のみ目標値を上回っている。 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止になった行事もあったが、Zoomで行ったり、少人数の授業形態にしたりして行事を行う努力した。	○中学生、高校生の交流は、相互の社会性育成の観点からも中高一貫校ならではのメリットと思う。中学生、高校生双方の成長につながる取り組みは、今後もさらに充実させて欲しい。 ○生徒が将来就きたい仕事を考え、それを意識して日々の学習に取り組めるよう、中高一貫教育校として、中高6年間を見据えた進路指導に力を入れていただきたい。 ○学習や日々の生活の在り様について、上学年の身近な先輩と語り合える機会を持つのは、中高一貫教育校のアドバンテージと捉え、さらに充実していただきたい。 ○どの項目にもあてはまるが、活動計画が中止及び内容変更、開催時期変更で苦慮したことが伺える。生徒の進路についての説明会について保護者の満足度が少し下がっていることが気になる。相反して生徒は満足度が上がっているのに、温度差を感じる。	○進路指導体制の確立をはかり、1学年から計画的に進路指導を行うとともに、高校との効果的な連携をはかる。 ○総合的な学習の時間や体験活動については、これまで同様、6年間を見通しながら、生徒の実態に沿った内容で柔軟にプログラムを組むことが重要である。 ○中学の先輩だけでなく、「先輩から学ぶ」や「特設SA」など高校生と語り合う機会は、高校からの説明をより具体的に示すものとして有効であるので、今後も継続して実施したい。今年度「特設SA」を2回したことは中学生ともに有意義であった。
		活動計画 ①進路指導の充実を図り、生徒の能力や適性を高めるため、行事を通しての体験学習や、質問タイム、補充学習、課題演習(全学年)、スペシャルアプローチ(3学年対象)等の内容の充実を図る。 ②体験的な活動を計画的に実施するとともに、外部との連携を積極的に取り入れることで社会性を育て、問題を解決する能力を養い、進路選択を支援する。	活動計画の実施状況 ①各学年に応じた進路指導を行った。また、質問タイム、補充学習を定期テストに合わせて年5回実施した。また、夏季休業日(5日)・冬季休業日(2日)の補習授業を実施した。それに加え、3年生にはスペシャルアプローチを各教科2時間程度、5年生が教えてくれる特設スペシャルアプローチを2時間実施した。 ②生活オリエンテーション 全学年 中止 人形浄瑠璃の鑑賞 1・2年生 10月 先輩から学ぶ 2・5年生 10月 就職ガイダンス 2年生 10月 職場体験出前授業 2年生 11月 (職場体験学習より変更) 職場体験学習発表会 2年生 12月 (縮小して実施) 夢ナビライブへの参加(希望者) 3年生 中止 川島高校体験入学 3年生 中止 スペシャルアプローチ 3年生 11月～1月 特設スペシャルアプローチ 3・5年生 12月			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題	
		評価指標		評価指数による達成度				
			活動計画	活動計画の実施状況				
<p>(4) 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底</p>	<p>①生徒一人一人の自覚を促し、基本的生活習慣を身につけさせる。</p> <p>②あらゆる教育活動を通して、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめの防止等の取組に努めるとともに教育相談活動の充実を図る。</p>	<p>①校則や交通ルールの遵守をめざし、90%以上が交通ルールを守れていると回答できるようにする。また登下校時の交通事故ゼロに努める。</p> <p>②あいさつをよくしているとの回答を、90%以上とする。</p> <p>③携帯電話を正しく使っているとの回答を90%以上とする。</p>	<p>①社会や学校のルールやマナーを守り、お互いが気持ちよく安全な生活を送れるようにする。また、徒歩通学生徒、自転車通学生徒、公共交通機関を使用している通学生徒、保護者送迎等それぞれの通学状況に応じた指導を行い、登下校時の事故やけがの防止に努める。</p> <p>②生徒相互、教職員、来客者に対するあいさつを徹底させる。特に全校集会等で生徒会本部役員とタイアップしてあいさつ運動を推進する。</p> <p>③外部講師による講話や講習会を毎学期に実施し、トラブル防止を推進する。</p> <p>④いじめの防止や、早期発見に努め、問題の背景や環境要因も考慮し適切な解決や支援を実行する。</p>	<p>アンケート結果</p> <p>①校則、交通ルールに関して生徒99%(昨年92%)保護者94%(昨年94%)が守れていると回答している。また、登下校時の交通事故は2件であった。</p> <p>②生徒73%(昨年63%)、保護者82%(昨年88%)があいさつをよくしていると回答している。目標値にはとどいていないが、生徒の回答は10ポイント上がった。</p> <p>③携帯電話に関しては、生徒93%(昨年90%)、保護者72%(昨年74%)が正しく使用していると回答している。使用に関して生徒、保護者と、しっかり連携して管理する必要がある。</p>	<p>①入学者説明会等で、生徒や保護者へ校則の周知徹底を図った。さらに同日、県警察本部センターによる携帯電話使用の講演を実施した。</p> <p>毎月の指導週間の実施 JR乗車指導の実施 全校集会後の中学生集会の実施 常時指導の徹底</p> <p>②生徒会によるあいさつ運動の実施</p> <p>毎月の指導週間の実施 外部講師による安全教室の実施 常時指導の徹底</p> <p>③喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室の実施 非行防止作文・ポスター作成 スクールカウンセラーの配置</p> <p>④アンケートや「至誠ノート」を始め普段の生活状況等を通して担任が注意深く観察し、いじめの早期発見に努めた。また、校則違反や問題行動等が見受けられた場合、速やかに保護者に連絡を取り、面談の場を持った。交通事故防止等を集会等で指導した。</p>	<p>(評定) B</p> <p>(所見) 自転車運転中の自損事故や交通事故が毎年発生している。交通事故は幸いにも重大事には至っていないが交通ルールやヘルメット着用の指導を徹底したい。携帯電話やスマートフォンの所持に教員は危機感を持っている。メールやラインを遊びに利用し、様々な問題が発生している。また、JR車中での使用(ゲームを含む)が増加傾向にある。これらの問題解決には学校の指導だけでなく、保護者の協力が不可欠である。中学生集会や、学年集会を利用して、自己肯定感や生命の大切さについて指導した。</p> <p>また、おもしろ半分に勝手に写真や動画を掲載することは許される行為ではなく、人権侵害やいじめ等、重大な事件につながる恐れがあることを指導した。さらに規範意識についても指導していきたい。</p>	<p>○あいさつをよくしているという生徒の回答が73%というのは、少し低い印象を受ける。日常的には指導されていると思うが、あいさつの大切さを機会あるごとに話して欲しい。</p> <p>○生徒一人一人が、基本的生活習慣の確立はどのように大切なのかを自覚して、日々の生活を律していけるよう、学級活動や道徳の時間において考えさせていきたい。</p> <p>○SNSを介した生徒間トラブルの防止のためには、外部講師を招聘した講習はもとより、各種教材を使った情報モラル教育が体系的かつ着実に実践されることを望む。</p> <p>○県中の生徒は、挨拶もできているし、交通マナーも守れているように思う。自動車は、乗らないのでわからないが、信号も守れているし、一列で自転車に乗っている姿をよく見かける。</p>	<p>○全項目について指導の徹底を図るが、特にあいさつの励行については、登下校時に立哨や呼びかけを行い、100%の実施につなげたい。</p> <p>○家庭と密接に連携し、安全で安心して生活できる学校づくりを推進していく必要がある。</p> <p>○問題行動には携帯電話やスマートフォンを使用したメールのやりとりが関係している場合が多い。そこで、外部機関を利用した携帯電話安全教室のより一層の充実を図り、トラブル防止の徹底をしたい。また、定期的にアンケート等を実施して生徒の生活状況を把握し、いじめ等の問題行動を未然に防ぎたい。</p>

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	価値	学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進</p>	<p>① 人権教育指導計画の推進と、“あわ”人権学習ハンドブックの活用により人権問題を解決できる生徒の育成に努める。</p> <p>② 人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 「人権学習に積極的に取り組んでいる。」と思う生徒の割合、80%以上をめざす。</p> <p>② 「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合、80%以上をめざす。</p> <p>③ 「人権を大切にしている教育活動が行われている。」と思う保護者の割合、80%以上をめざす。</p>	<p>評価指数による達成度</p> <p>アンケート結果</p> <p>① 生徒 89%が、「人権学習に積極的に取り組んでいる。」と回答し、評価指標を十分達成している。</p> <p>② 生徒 93%が、「人権の大切さを学び日常生活に活かそうとしている。」と回答し、評価指標を十分達成している。</p> <p>③ 保護者 82%が、「本校では人権を尊重する考え方や態度を育てる教育が行われている。」と回答し、評価指標を達成している。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>本校は、多くの小学校から入学してきているという実態があり、まず人間関係づくり・仲間づくりを大切にしながら、実践を重ねている。話し合い活動や表現活動を多く取り入れることで、生徒が主体的に学習に取り組めるような授業形態を工夫している。</p>	<p>○ 「人権学習に積極的に取り組んでいる」と9割の生徒が回答しており、人権意識が高い集団であることは素晴らしいと思う。さらに身の回りの人権課題に気づき、自分事として考えていく機会を作っていくことを望む。</p> <p>○ 重点目標の②に掲げる「人権意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める」活動として、生活アンケートと学年ごとの講演会の実施、人権・放送委員会活動の実施を評価しているが、名実共に創意溢れる具体的な展開とするためには、事前と事後の活動の充実など、一層の工夫と改善を試みていただきたい。</p> <p>○ このテーマが一番難しい教育だと思う。いじめをしている側は、将来何の傷も残らないかも知れないが、いじめを受けた側は、一生傷が残る。生活の中で一番守らなければいけないのは一人一人の人権です。</p>	<p>○ 今回の学校評価アンケートは目標としていた指標を達成できていた。今後もさらに、学習したことがらをもとに態度化・行動化につなげ、意識をより高め、高い人権意識を維持する工夫をしていく必要がある。今年度なかなか実施できなかった教職員の研修を充実させるとともに、今後とも外部講師による体験的な学習も積極的に取り入れていきたい。また、日頃の姿勢から生徒や教職員の人権感覚の醸成をはかしていきたい。</p> <p>○ 人権の日や人権新聞など、中高の連携を図りながら、共に学んでいく、機会を継続していきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① 生徒の実態に即した人権学習主題を設定し、個別的な視点と普遍的な視点の双方を加味し、学習を組み立てていく。また、“あわ”人権学習ハンドブックや「わたしの願い」の活用を努める。</p> <p>② 生徒一人一人を生かし、大切にすることを学級づくりのため、学校生活に関するアンケートを行う。授業や指導の中で、いじめは、人権にかかわる重大な問題であり、絶対に許されない行為であることを徹底する。また、自分も相手も大切にすることを築き、コミュニケーション能力を育成するために、体験的参加型学習を取り入れる。</p> <p>③ 人権・放送委員会が積極的に活動する場を作り、生徒が主体的に学び、行動に移していこうとする意欲や態度を育成する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 各教科における人権教育年間計画を作成し、授業や学校生活の中で人権教育の推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “あわ”人権学習ハンドブックや「わたしの願い」を活用し、普遍的な視点と個別的な視点を結び合わせながら、各学年で共通の内容の学習を進めていった。1年生は「福祉・仲間づくり」、2年生は「識字学級」、3年生は「仲間とつながり合う」ということを意識し、思いを伝え合うなかで様々な人権問題を解決しようとする意欲を高めることができた。 <p>② 人間関係を築く能力やコミュニケーション能力、他の人の立場に立って考えられるような想像力を培うために、また学んだことへの態度化・行動化につなげるために、生徒の実態を把握するとともに授業形態も工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活アンケートを行い、生徒一人一人や学級・学年・学校の実態を把握することに役立った。 ・ 生徒が主体的に参加し、体験することで人権感覚を身につけることができるよう、体験的参加型学習を多く取り入れた。 <p>1年生：福祉体験・盲導犬ユーザー講演会 (11・12月)</p> <p>2年生：識字学級について講演会 (1月)</p> <p>3年生：思春期講演会</p> <p>③ 人権委員会の活性化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内人権問題意見発表会 (8月) ・ 月1回「人権の日」を設け、中高合同で様々な人権問題について考える時間を持っている。校内放送でも、学んだことや自分たちの思いを全校生徒に向けて発表した。 ・ 人権標語の作成を人権・放送委員会の生徒主体で行った。 	<p>1年生では「福祉・仲間づくり」への取り組みは、体験的活動を積極的に取り入れながら、生きて働く力の育成にもつながった。2年生の識字学級についての講演会では、生徒主体で学んだことや疑問に思ったことを講演者に質問するなど生徒の人権学習への積極性を養うためにも効果的であった。3年生では、広島への修学旅行の事前学習で学んだことや現地で見聞きしたことを模造紙にまとめ、掲示した。戦争の悲惨さや平和を求め意識を高めることができた。また、人権の日の放送では新聞記事で障がい者差別について取り上げ、3年生の中で放送内容を練り上げ、全校生徒に発表できた。1・2年生はコロナウイルス感染症に対する差別をしないという内容を絵本の朗読を取り入れ、効果的に啓発できた。</p>		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標		評価指数による達成度			
(6)心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実	①学校行事、生徒会活動を通じて生徒の自主性の育成に努める。 ②ホームルーム活動(学級活動)や部活動のより一層の充実と活性化を図る。	①学校行事に積極的に参加していると思える生徒を90%以上とし、保護者の理解も90%以上得られるようにする。 ②3年間を見通した体験学習が、豊かな心を育むために役立っていると90%以上が思えるようにする。また、本校の部活動が活発に行われているとの回答を、生徒・保護者とも80%以上にする。	アンケート結果 ①生徒92%が学校行事に積極的に参加していると回答し、保護者91%が学校行事が適切に行われていると回答している。 ②生徒97%、保護者91%が、体験学習は豊かな心を育むために役立っていると回答し、生徒の91%、保護者80%が、本校の部活動が活発に行われていると回答している。	総合評価 (評定) B	(所見) 学級や学校の一員として、周囲との望ましい人間関係を形成し、よりよい生活づくりを参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てることができたと思われる。 コロナ禍で多くの制限はあったが、すべて中止にせず、できる範囲で工夫して代替行事を行った。	○新型コロナウイルスへの対策による制約が続く中で、苦労は多いと思うが、できる範囲で工夫をして生徒の成長につなげて欲しい。 ○学級活動や学校行事、生徒会活動の充実と活性化を図るための活動計画が漠然である。また活動計画の実施状況③は根拠に乏しい印象を記している感が否めない。 ○掲げる評価指標とした数値目標を達成できたから、生徒の自主的、実践的な態度や健全な生活態度が育てられたと一概に評価するには説得力に乏しい。 ○コロナ禍でも考えて行事等を行っていたいただき感謝している。特に修学旅行を実施するにあたっては、いろいろな意見があったことだと推測する。生徒一人一人がこの大変な時代に学校生活を送れていることは先生方のがんばりによるものだと改めて感謝申し上げる。	○学校行事や生徒会活動、学級活動の目的を再度見直し、さらに充実した学校生活を生徒が送れるよう不断の改善を図ってきたい。 ○コロナ禍での学校行事のあり方を検討し、実施する。
		①目的や運営のあり方を見直し、生徒の実態に応じて学校行事をより充実したものにする。 ②各生徒会専門委員会の意義や役割を周知し、生徒の自主的な活動をすすめるため、生徒会活動の活性化を図る。 ③学校生活や学級における身近な課題をもとに話し合い、積極的・実践的に学級の合意が図れるよう指導する。	①学校行事 入学式 4月 忌部の郷めぐり 4月(中止) 修学旅行(3年) 5月(11・12月に延期) YMCA(1年) 6月(中止) 体育祭 9月(10月に延期) 阿波文化体験(2年) 11月(淡路人形座出前公演に変更) ②専門委員会 専門委員会を実施し、呼びかけや活動について、中学生集会で全校生徒に周知したり、ボードに掲示したりした。 ③特別活動の各領域を通じて、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学習生活づくりに参画しようとする態度を育てることができた。また、生徒が学校や学級への所属感や連帯感を深め、協力して諸問題を解決し、よりよい学校、学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることができた。				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標		評価指数による達成度			
<p>(7) 環境教育及び国際理解教育の推進</p>	<p>①新学校版環境ISOに取り組むなど環境保全活動に努める。</p> <p>②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。</p>	<p>①「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する生徒の割合が70%以上をめざす。</p> <p>②外国語活動やグローバルの授業が外国の言語や文化に触れ視野を広げるのに役立っていると思える生徒が80%以上となるようにする。</p>	<p>アンケート結果</p> <p>①「清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する生徒の割合は81%であり、目標を11ポイント上回った。</p> <p>②「外国の言語や文化に触れ、視野を広げるのに役立つ国際交流事業を行っている」と回答する生徒は89%であり、目標を9ポイント上回っている。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p>	<p>(所見)</p> <p>換気、手洗い励行のため、例年より節電節水を徹底しづらい一年だった。その分、清掃や美化活動、環境整備に努め、目標数値を達成することができた。</p> <p>「外国の言語や文化に触れ、視野を広げるのに役立つ国際交流事業を行っている」と答えた生徒が、目標値を上回った背景には、四国大学の留学生との交流会や、台湾の生徒とのZoomでのやり取りなど、積極的な国際交流事業を実施したためだと考えられる。</p>	<p>○地球規模の大切な環境教育の取り組みや国際理解教育が進められていると思う。国際理解教育で、相互の文化理解を図る上での交流も重要であるが、あくまで自国の身近な文化、文化財の理解を前提において欲しい。</p> <p>○環境美化委員会の活動が呼び水となり、全生徒の環境美化意識を高めていったことが、数値目標を大きく上回る結果を出せたことにつながったと大いに評価したい。</p> <p>○海外語学研修の中止の代替とした四国大学への留学生との交流会、Zoomを活用しての英語圏以外の地域に住む生徒との英語を介した交流は、よく工夫されたと思う。</p> <p>○いつ見ても県中の校舎は、きれいだと思う。今年は、文化祭がなかったために中学校棟に足を踏み入れることはかなわなかったが、来年は文化祭を通して中学校棟に入れることを願っている。国際交流の機会も従来とは違う形になったが、新しい取り組みで成果が出たというアンケート結果に安心した。</p>	<p>○感染症予防の励行と、節電・節水に努める意識の醸成を両立する仕組みや取組を考えていきたい。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、国際交流のあり方を見直していかなければならない。ICT等を活用し、状況に応じて、最適な国際交流事業を積極的に実践していきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①「新学校版環境ISO」の認定校として、環境美化委員会を中心に清掃活動やリサイクル活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中庭の花壇の水やりと玄関の掃除を環境美化委員が当番制で毎日行い、校内の美化に努める。 ・学期ごとに環境美化委員会で学校周辺のゴミ拾いに出かける。 <p>②国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外語学研修現地校や海外の学校との交流の機会を積極的に取り入れる。また、「グローバル」等の授業を活用して、自他の文化への理解を深めるなど、生徒が積極的に交流できるように適切な指導と準備を行う。 	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①環境美化委員会の生徒が、毎朝欠かすことなく玄関の掃き掃除に取り組み、春から秋にかけては中庭の花壇の水やりも合わせて行った。学期ごとには学校周辺のゴミ拾いに出かけ、地域の環境美化に貢献した。また環境安全教育課の職員を中心に、校内全体の環境整備に努めた。</p> <p>②国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外語学研修は実施できなかったが、四国大学の留学生との交流会を実施し、生徒の国際性を育んだ。 ・昨年度に引き続き、グローバルの授業において、2・3年生は台湾の生徒との手紙の交換を行った。さらに、本年度はESSのメンバーを中心に台湾の生徒とZoomでの国際交流に取り組んだ。 				

令和2年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(8)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(8)開かれた学校づくりと安全教育の推進	①地域貢献活動などの活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実地域の連携を深め、外部評価結果を活かす取組を推進する。 ②地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努め地域防災を担う人材を育成する。	①「参観日や見学会を通して、学校の特色が伝わっている」と思う保護者の割合70%以上をめざす。「外部講師を招いての授業の機会が多く設けられている」と思う生徒の割合70%以上をめざす。	①参観日や学校公開の日、県立川島中学校見学会の機会に特色ある授業を実施し、学校の取組を発信する。また、小学校への広報として学校パンフレットや広報誌「絆」の配布を行う。 外部講師を招いての出前授業や学校行事、部活動などの学校の取組をホームページで発信し、学校の広報活動を充実させる。また、すべての教員で分担してホームページの更新に取り組めるよう、マニュアルの作成と教員研修を行う。	アンケート結果 ①保護者の80%が、「参観日等を通して学校の様子が伝わっている」と回答しており、生徒の84%が「外部講師による授業の機会が多く設けられている」と回答している。	(評定) A ----- (所見) 評価指標①～③のすべてで、目標値を上回っている。 今年度は参観日が1回のみであったが、授業内容を通して本校の特色ある教育活動を広報する機会になっている。外部講師を招いた授業については、例年通り実施できないものもあったが、Zoomを活用して機会を確保したため、生徒の肯定的な回答が多かった。 ホームページについては、多くの教員で分担して行うことができ、昨年度に比べて更新数が2.5倍に増加し、より多くの人々に利用してもらえるようになった。 防災学習について、総合的な学習の時間や避難訓練、防災クラブの活動を通して、生徒の防災意識と実践力の向上が見られた。	○学校の取組や生徒たちの活動が、より知られるようになれば良いと思う。 ○保護者や地域と学校を繋ぐツールである学校HPの積極的な更新やメール発信の回数を増やして、学校の教育活動の広報に努めていることを大いに評価したい。 ○安全・防災教育の推進には、地域や関係諸機関に協力を呼びかけ、連携を深めることが重要である。次年度にZoomを活用して取り組もうとしていることを評価したい。 ○参観日の出席率が63.7%あることは近隣の中学校の中でも群を抜いて多いと思う。我が子が県中時代も保護者は熱心で学校行事にも積極的に参加して下さりありがたかった。今もそのときのままであることをうれしく思う。保護者が学校行事等に参加していただけるというのは、校内の雰囲気がいこの表れだと思う。	○今後も参観日や公開授業の授業内容を工夫し、本校の魅力や特色ある取組について発信できる機会にしていきたい必要がある。小学校への広報活動を強化していくことも必要である。 ○ホームページで十分に更新ができなかった部活動の様子や、各学年の特色ある学習の様子について発信する。 ○ZoomなどICTを効果的に活用して外部講師を招いた授業の機会を確保するとともに、ホームページでの発信を行う。 ○新型コロナウイルス感染症の影響下においても、地域と連携した安全・防災教育のあり方を考え、実践していく必要がある。
		②「ホームページは、学校の広報活動に役立っている」と思う保護者の割合70%以上をめざす。		②保護者の80%が、「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている」と回答している。			